

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第38回

森の彫刻家 上床利秋

ミケランジェロの遺作 ロンダニーニのピエタは未完成なのか(1)



ロンダニーニのピエタ (1564年) 89歳

ミケランジェロの遺作
キリスト像の前に磨かれた腕が遺されているのは何故なのだろうか。

(写真:アウレリオ・アメンドラ)

かつて鹿児島大学彫塑研究室では中村晋也先生が現職教授だった頃、毎年12月29日に「ミケランジェロ祭」と銘打った忘年会を教室で開いていました。

それを久しぶりに当時の学生たちが恩師のもとに集まり、昨年の暮れに復活させることになりました。彫塑研究室だから何と言ってもミケランジェロの研究発表を誰かが行うことがメインだった行事です。今回は同窓会の色が濃いのかなと思っていたら、先生から電話が入り「一つ君が発表をやってくれないか」とのことで急に私が発表することになりました。



昨年末のミケランジェロ祭 研究発表風景 腕組みされている中村晋也先生と奥様を囲む弟子たち (写真:野添浩一)

全国から展覧会に出品を続ける彫刻の専門家14人が鹿児島市に集まりました。そこで彫刻家の考察するミケランジェロの遺作「ロンダニーニのピエタ」は完成作なのか?というテーマでかねて思っていることを整理して発表しました。

以下はその時の内容を要旨としてまとめたものです。2月3月4月号に連載します。

この頃までのミケランジェロは民衆の期待に応えるべく、作品を完璧に仕上げていた。磔刑直後のキリストとマリアの石像を丹念に磨き上げ、顔の表情はすべてが終わった後の愚行に対する民への慈愛とも受け取れる印象さえ表現されている。究極の写実表現と言っても、誰も異論を唱える人はいないだろう。



キリストの頭部 (ピエタ像拡大写真)



マリアの頭部 (ピエタ像拡大写真)



サン・ピエトロのピエタ (1500年) 25歳
ミケランジェロ作

ミケランジェロは若干23歳でサン・ピエトロ大聖堂のピエタ制作を依頼されて彫りはじめ、その名を世間に知らしめた。そして30歳ではダヴィデを完成させてその名声は不動のものになっていた。写真や動画のなかった時代に、ルネッサンスを築いた人々が傑作を産み出すヒーローに期待する思いはさぞ熱かったに違いない。

ところが天才はその境に彫り出す作品を途中でやめてしまおうか、破壊してしまう。それは晩年まで続く。学説でミケランジェロを語るときに話題になる「ノンフィニート」未完成である。しかし、天才の仕事のノンフィニートはいずれも失敗作のように思えない。凡人がたまにしかたす、失敗してのほったらかしとは違う撃の置き方であり、ここからは天才には見えてくるから彫り進める意味がないという理由が真実であろう。 つづく

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。

レモン画材絵画教室 **ご案内**

●隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室

●隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩 教室

●隔週日曜日 16:00～ デッサン

●隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～

●月1回 第2木曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉
チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで